

京都国立博物館
だより

二〇一七年
一〇・一一・一二月号



KYOTO NATIONAL MUSEUM

2017 October to December, vol.196



開館一〇〇周年記念特別展覧会
国宝

特集展示

御所文化を
受け継ぐ

近世・近代の有職研究

新春特集展示

いぬづくし

―干支を愛でる―



考古

— 地中から語りかける日本のはじまり —

女神降臨
国宝 土偶（縄文の女神） 山形県西ノ前遺跡出土 山形県（山形県立博物館保管）「Ⅰ Ⅱ期展示」
縄文時代特有の土偶。女性を表したものが多く、豊穡などを祈念したとされます。その造形は原始的でありながら、モダンでもあります。

京都国立博物館 開館120周年記念

国宝

特別展覧会

平成29年10月3日(火)～11月26日(日)

I期 10月3日(火)～10月15日(日)
II期 10月17日(火)～10月29日(日)
III期 10月31日(火)～11月12日(日)
IV期 11月14日(火)～11月26日(日)

※Ⅰ～Ⅳ期は主な展示替えです。
一部の作品は、右記期間以外に展示替えを行います。

【平成知新館】

本年、京都国立博物館は開館して二〇周年を迎えます。また、日本の法令上「国宝」という言葉が初めて使われた「古社寺保存法」制定から、ちょうど二〇年目にあたります。この節目の年に、関西では四十一年ぶりとなる「国宝」展を開催します。

当館で三度目となる今回の「国宝」展では、二〇〇件以上の国宝を大きく四期に分け、一挙公開します。二〇一七年までに指定されている国宝のうち、建造物を除く美術工芸品は八八五件にのぼりますが、そのうちの約四分の一にあたります。数年、数十年に一度、出会えるかわからない国宝。これほどの件数が一堂に会することはほとんどなく、国宝の魅力を十分に堪能できる貴重な機会といえるでしょう。

本展覧会では、四つの切り口から展示を構成しています。一つ目は京都国立博物館が所在する京都を中心に、関西・西日本地域にゆかりのある作品、二つ目は縄文土器などに代表されるように日本独自の文化を示す作品、三つ目は、日本文化が大きく影響を受けてきた中国などの作品を展示します。

四つ目は、当館研究員が担当している考古、彫刻、絵画（仏画、絵巻物、肖像画、中世絵画、近世絵画、中国絵画）、書跡、染織、金工、漆工、陶磁の、十二ジャンルそれぞれの専門分野の強みを活かし、日々の研究内容や、これまで開催してきた数多くの展覧会の成果をもとに展示を行います。

また、「画聖雪舟、全六件の国宝を一室で公開」、「長谷川等伯・久蔵、奇跡の親子共演」、「火焰型土器ナンバーワン、十六年ぶりの県外公開」なども見どころです。

（降矢哲男）

近世絵画

— 絢爛豪華な大画面の世界 —

琳派の最高傑作、初の里帰り！
国宝 燕子花図屏風（右隻） 尾形光琳筆 東京 根津美術館「Ⅳ期展示」

大正時代のはじめまでは京都 西本願



彫刻

— 仏像といえば、なんといっても関西 —

一番新しい国宝です
国宝 大日如来坐像 大阪 金剛寺（通期展示）

この像は、脇侍の不動明王坐像 降三世明王坐像とあわせて、今年あらたに国宝へ指定されました。展覧会後は金剛寺の本堂にもどるため、「国宝」展が寺外で公開される最後の機会となります。



六道と地獄

— 平安時代の終活！ —

六道の底辺に響く日音
国宝 地獄草紙（部分） 奈良国立博物館「Ⅲ期展示」
写真 奈良国立博物館（撮影 佐々木香輔）

罪人の体を白ですりつぶす巨大な獄卒たちが、暗黒の中に浮かび上がります。小さな灯りの下でこの絵巻を見た貴族たちの恐怖はどれほどのものだったでしょう。

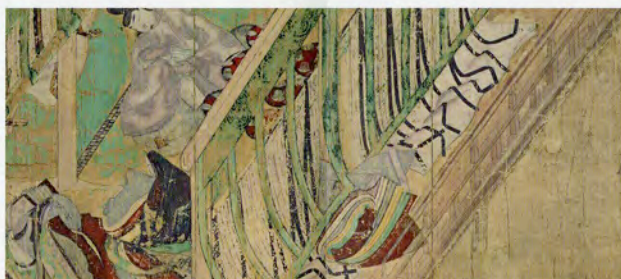


絵巻物

— 時空を超えた冒険へ —

王朝美の代名詞
国宝 源氏物語絵巻 柏木（三） 愛知 徳川美術館「Ⅲ期展示」
© 徳川美術館 イメージ・カーフ / DZM BLOOM

日本文学史上の傑作にして、いまや世界中で読まれる光源氏の恋愛物語。この絵巻は、源氏物語を描いた現存最古の作品です。



中国絵画

— 雪舟や等伯も憧れた至高の絵画 —

日本に伝来した、愛の溢れる中国絵画の最高峰
国宝 観音猿鶴図 牧谿筆 京都 大徳寺「Ⅲ期展示」

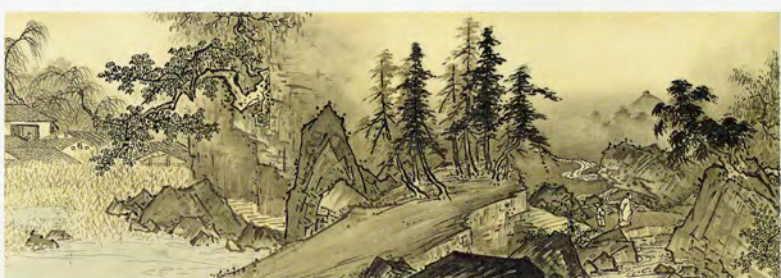
慈悲深い白衣観音をはさんで、子を探す鶴に子を抱く猿も母性愛に溢れています。筆者の牧谿は中国 南宋時代の画僧。本国では忘れ去られた存在でしたが、繊細にして大胆な画風は日本人の琴線に触れ、狩野派や長谷川等伯らにも影響を与えました。

中世絵画

— 雪舟の国宝6件がすべて 室に！ —

山水絵巻に酔う
国宝 四季山水図巻（山水長巻）（部分） 雪舟筆 山口 毛利博物館「10月3日～22日展示」

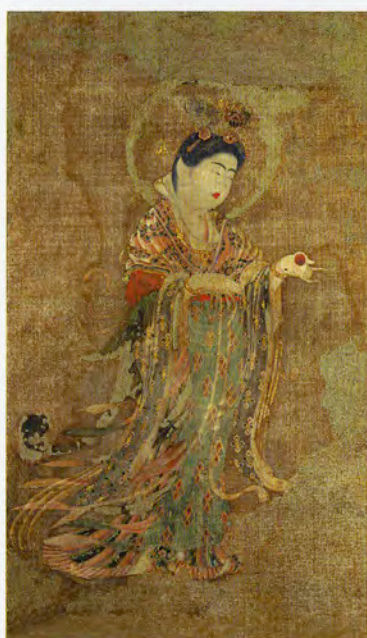
15メートルを超える長大な山水図巻。四季の移ろいを楽しみながら絶景を眺めるのは、まさに至福の時といえましょう。「雪舟」展以来、当館では15年ぶりの展示となります。



仏画

— これがわかれば美の免許皆伝 —

京都に舞い降りる、天平美人
国宝 吉祥天像 奈良 薬師寺「Ⅰ期展示」 写真 飛鳥園
天平美人そのままに 艶麗です。天衣の半透明感など西洋画的な感覚があります。



肖像画

— かつて彼らは生きていた —

神護寺三像、23年ぶりの勢ぞろい！
国宝（右から） 伝平重盛像 伝藤原光能像 伝源賴朝像（部分） 京都 神護寺「Ⅲ Ⅳ期展示」

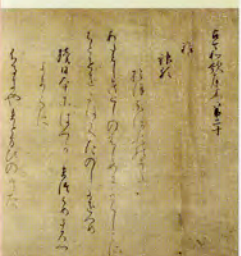
超絶技巧ともいうべき美しく冴えわたる描線によって、堂々たる品格が編み出されている、日本肖像画の最高峰。展覧会での三像が揃うのは23年ぶりです。



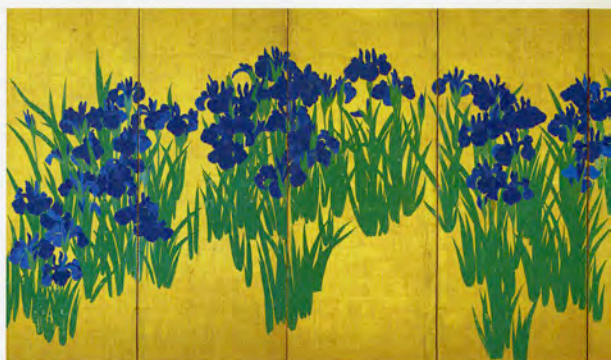
書跡

— 筆跡に宿る、先人たちの「魂」 —

和歌 日本人の心
国宝 古今和歌集 巻第二十（高野切本）（部分） 高知県立高知城歴史博物館「10月3日～9日展示」
数ある「古今和歌集」の写本のうち、



西本願寺から出て以降、京都の地に戻ることはありませんでしたが、このたび100年以上の時を経て、はじめての里帰りが実現します。さらに、十八世紀の京都が生み出した、燕子花図屏風「円山応挙筆「雪松図屏風」与謝蕪村筆「夜色楼台図」の珠玉の3国宝の競演も見逃せません。



者として、頂点に君臨するのが「高野切本」です。巻第二十が完存する、この奇跡の巻は、料紙の装飾に映える老練な筆づかいが最大の魅力です。展示期間が短いので、どうぞお見逃しなく！

染織

はかなきものに托した祈り

仏の世界―異国への憧れ―

国宝 天寿国繡帳 奈良 中宮寺（10月3日～22日）
展示 写真 奈良国立博物館（撮影 森村欣司）

仏国土 天寿国に往生したという聖徳太子の姿を偲んで、妃 橘大郎女が作らせた帳。仏の教えに出会ったばかりの人々が、ひと針ひと針めいあらわした世界は、断片と化してはいるものの、太子への想いと浄土への憧れを力強く訴えかけてきます。



金工

―日本金工の美質、ここに集結―

武士のダンディズムと美

国宝 赤韋威鎧 岡山県 岡山県立博物館保管（下期展示）

平安時代後期、武将の着用として制作が盛んとなった鎧（大鎧）。勇壮で毅然とした威容、周到な素材の取り合わせは、日本甲冑独特の美を示しているといえるでしょう。

陶磁

―京都で花開く桃山文化―

茶の湯の名磁

国宝 志野茶碗 銘 卯花塙 東京 三井記念美術館（通期展示）

迷いのない筥削りや歪ませた器形、そして胴に施された鉄絵具による垣根の文様と志野釉の色彩と景色。どれをとっても、「桃山」という、政治、文化が激しく変革する時代性を凝縮した茶碗です。



平成知新館 名品ギャラリー

- 3F-1 陶磁
*12月19日（火）～平成30年1月1日（月・祝）は休室。
3F-2 考古
*12月19日（火）～平成30年1月1日（月・祝）は休室。
2F-1 絵巻

【新春特集展示】

- いぬづくし―千支を愛でる―
12月19日（火）～平成30年1月21日（日）
2F-2 仏画
【新春特集展示】
いぬづくし―千支を愛でる―

【東福寺の絵師・明兆とその周辺】

- 12月19日（火）～平成30年1月21日（日）
2F-3 中世絵画
2F-4 近世絵画

【仙人大集合】

- 12月19日（火）～平成30年1月21日（日）
2F-5 中国絵画
【中国の仙人たち】
12月19日（火）～平成30年1月21日（日）
1F-1 彫刻

【特集展示】

- *12月19日（火）～平成30年1月1日（月・祝）は休室。
1F-2 特別展示室
【特集展示】 御所文化を受け継ぐ
―近世・近代の有職研究―
12月19日（火）～平成30年1月28日（日）
1F-3 書跡

【特集展示】

- 御所文化を受け継ぐ
―近世・近代の有職研究―
12月19日（火）～平成30年1月28日（日）
1F-4 染織

【特集展示】

- 御所文化を受け継ぐ
―近世・近代の有職研究―
12月19日（火）～平成30年1月28日（日）
1F-5 金工

【梵音具】

- 12月19日（火）～平成30年1月28日（日）
1F-6 漆工

【中国と琉球の漆芸】

- 12月19日（火）～平成30年1月28日（日）

特集展示

御所文化を受け継ぐ

―近世・近代の有職研究―



平成29年12月19日（火）～平成30年1月28日（日）【平成知新館 1F-2】4

御所文化と言って思い浮かぶのは、『源氏物語』に活写される典雅な装束や調度に取り囲まれた世界ではないでしょうか。宮中で育まれた御所文化は、この『源氏物語』が執筆された平安時代に頂点を迎えます。

平安時代の御所では、日々の政務とともに、数多くの宮廷儀式が執り行われました。そこでは、用いる調度、着用する装束、立居振舞などに独特の形式と作法があり、宮廷人はそれらを滞りなく務めなくてはなりませんでした。そのため、宮廷礼法全般におよぶ知識である「有職」が重要視されることになったのです。藤原道長をはじめ、名だたる貴族が詳細な日記を書き残したのは、さまざまな儀式における正しい振舞を子孫に伝えることが主要な目的であったと言われています。

実際には、武家政権の台頭をうけ大きく変動していく社会の中で、宮廷儀式は衰退を余儀なくされます。さらに、応仁の乱をはじめとする内戦によって京都が戦場になると、装束や調度の製作さえもままならなくなり、すべての儀式が簡略化へと向かいました。こうして、数千年、時には数百年も再興されない儀式が生じることになりました。

それが復興へと向かうのは、世相が落ち着く江戸時代に入ってからです。数百年途絶えた儀式であっても、これまでに書き残された膨大な記録をもとに、絵画資料や遺品などを研究することによって再興が可能でした。近世から近代は、理想の王朝時代を再現するために、さまざまな有職研究が重ねられた時代とも言えるでしょう。

京都国立博物館には、世襲親王家のひとつであった有栖川宮家伝来の江戸時代の公家装束類を筆頭に、近代に製作された秩父宮家の装束類、さらには京都御所に伝来した江戸時代の調度品や、近世に書写された有職文献などが相当数所蔵されています。このたびの展示では、これらの作品群を通して、近世から近代にかけての御所文化再興の様相を振り返ります。

山川 曉



諸殿調度図（部分）江戸時代 19世紀 京都府寄贈 京都国立博物館
宮中のさまざまな調度を描いた巻物。

銭形屏風（部分）京都国立博物館
京都御所旧蔵と考えられる調度品。昭和4年（1929）宮内庁より恵賜京都博物館へ下賜。

五衣唐衣裳 秩父宮勢津子妃（1909～95）着用 京都国立博物館
昭和3年（1928）の婚儀に着用。

新春特集展示

いぬづくし

―千支を愛でる―

平成29年12月19日(火)
 平成30年1月21日(日)
 〔平成知新館 2F 1・2〕

千支にちなんだこの特集展示、平成知新館の開館以来継続しておりますが、実は明治三十四年から同四十三年まで続けられていたことはご存じでしょうか。古くて新しいこの企画、平成三十年は犬を特集テーマといたします。

社会性が高い犬は、古くから人間のパートナーとして愛されてきました。現在は様々な犬種が外国から日本にやってきておりますが、日本犬として天然記念物に指定されているのは、柴犬、紀州犬、四国犬、北海道犬、甲斐犬、秋田犬の六種です。江戸時代にはかわいらしい子犬を題材とした作品がたくさん残されています。

加えて、小型室内愛玩犬として狎えと呼ばれる類があります。現在では白黒の長毛で鼻がくしゃっとつまった(短吻種



嵯峨人形 犬 京都国立博物館

といいます)ジャパニーズ・チンと呼ばれる日本原産の改良・固定種が狎とされていますが、これは明治時代以降の話です(国井応文 望月玉泉筆「花卉鳥獸図巻」参照)。

狎の歴史は非常に古く、かつては外来の小型室内犬を狎と総称していたようです。『続日本紀』天平四年(七三二)五月十九日条に新羅から「蜀狗一口」が献上されたという記録がありますが、これはチベット原産の短吻種犬が中国四川省を経て朝鮮半島に伝わり、日本に伝来したと考えられています。

その後も、南蛮貿易などで小型犬が日本にもたらされ、日本でジャパニーズ・チンに改良されていったとされます。しかし、江戸時代には、短吻種だけではなく、長吻種の日本テリアに近い姿のものも狎と呼ばれていました(「嵯峨人形犬」参照)。

当館に所蔵 寄託される名品佳品を通して、古くからの犬と人のかかわりに思いを馳せていただければ幸いです。(大原嘉豊)

よみもの

友松画のゆるいたわみに思う

美術史家 脇坂 淳

この春の「海北友松展」を十六万五千人が鑑賞した。何と読むのだろうと言っていた人の多くが「かいほうゆうしやう」を知った。「刀を握るはずだった手は」この絵師ただものではない」といったキャッチフレーズに誘われて。

孫の友竹をして「誤りて芸家に落つ、願わくは時運に乗じて武門を起こし」と言わしめたばかりに、友松の半身は武人であるかのイメージがつきまとう。そのため、氣に筆を走らせた直線をあたかも刀を振り下ろした氣迫の現れと思ってしまう。たしかに氣迫は込められているが、果たして友松は武門再興をいつまでも引きずっていたのだろうか。

友松の画事が知られるようになるのは還暦の頃からで、確かな遺作は六十五歳以降亡くなる八十五歳までの十五、六年の間に集中している。それまでの六十年いったい何をしていたのか、狩野元信に学んだとか、永徳に師事したとか伝えられるものの、画歴の痕跡を示す作品は数少なく、謎はなかなか解けないでいる。それでも永徳の他界を機に狩野派を離れたのでは、とする今回の特別展での見解は示唆深い。時に友松五十八歳。輪郭を明瞭な稜線で括り、何本も筆を重ねた皴で立体感を表す岩。傘を広げるように枝を伸ばす松樹、その根は地上へはみ出している。人物の纏う衣の襞を表す墨線は力強い打ち込みで始まる。こういった狩野の画法を身につけていた筈の友松がかなり速やかにその画法を脱ぎ捨てていく。直線的な筆線を曲線に変調していったとも言えよう。岩の作りは濃墨による刷け限を多用し、没骨描で輪郭線をもたない丸みを帯びた形態へと変容させる。ゆるやかに湾曲させた大樹の幹を描き消し、伸長する枝葉の数を整理して松の葉叢も簡略化させる。根元の根上がり部分も形骸化。人物の衣文線は打ち込みをひかえ、むしろゆるやかに筆を下ろしてゆったり引きながら、時には止めの部分を撥ね上げたり撥ね下ろしたりする。

素人というか無垢の状態で狩野の門を潜った友松を思うと、基礎的な技法を徹底して学びとり、身につけた狩野派様をそうそう容易に拭い去ることは難しからう。しかし、還暦を機に武門再興の希い、そして狩野の画法、ともに放下して新生芸家の道を開かんと決意したのではなからうか。それにしても独自の画風を創出するには固有の造形性が具わっていなければならぬ。

最晩年画の妙心寺に伝わる屏風を思い起こしてみると、「琴棋書画図屏風」の左端、溪流に架けられた石橋の反りにしたがって、その曲線の先には背を丸めて文読も老漢が佇み、老漢のもたれる老木も弧を描いて金雲の中へ伸びていく。ここに見られるようなゆるやかに湾曲する曲線が友松画には随所に認められる。「寒山拾得 二酸図屏風」の寒山が広げる経巻のゆったりしたカーブもそうであるし、「花卉図屏風」の牡丹の主軸が弓なりに反る形態にも現れたたわみの造形性、これこそ友松画の特性である。

もちろん梅を描いて鋭角的に屈折伸長させた枝も見せる。が、胸を突き刺すような鋭い筆線ではなく、全体としては曲線の柔らかさ、たおやかさが勝っている。話題になった「月下溪流図屏風」(ネルソン・アトキンズ美術館蔵)も樹幹は下方が描き消され、溪流も下って次第にたゆたう。反り上がった石橋があるかと思えば、曲がりくねる地景に優しく丸い岩が点在し、主張のない余白、何とも薄暈けた背景、老梅を越して月影が浮かぶ。こうした角のないゆるいたわみの中に癒やされ、梅の香を聞いた人もいるに違いない。

公式キャラクター
 トフリんの
 LINEスタンプが登場!



平成27年(2015)に生まれた京都国立博物館の公式キャラクター トフリん。このたび新たにLINEスタンプが登場しました。可愛いしぐさやんちゃなポーズを集めた全40種類を販売中です。ぜひご利用ください



第25回国際博物館会議 (ICOM) 大会は
 京都で開催!

三年に一回、世界中の博物館関係者3千人以上が一堂に会する国際博物館会議 (ICOM) の第25回大会が、平成31年(2019)9月1〜7日に京都で開催されます。博物館を核とした関西全体の盛り上がりが期待されています。今後の動きにぜひご注目ください。



特別展覧会「国宝」うちわ
 をゲットしよう!

「国宝」展のチラシがうちわになりました!市内各所や博物館内で配布中です。数に限りがありますので、見かけたらぜひゲットして。



120周年記念コース 2,700円(税込)
 トフリんデザート―栗のケーキと抹茶クリーム―594円(税込)



*各店舗の営業時間については、ウェブサイトをご確認ください。

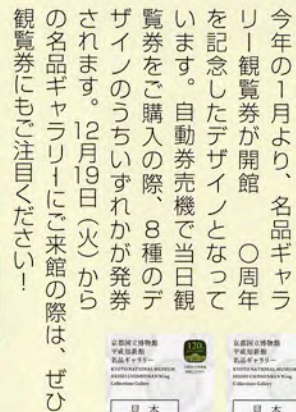
トフリんラテ(抹茶 黒ごま) 750円(税込)
 お手前珈琲 650円(税込) *ともに水出し珈琲羊羹付



上/「トフリん手鞠」540円(税込)
 下/「トフリん手鞠」と「言祝(ことほぎ)」のセット1080円(税込)
 *ジェイアール京都伊勢丹と館内ミュージアムショップだけの限定販売

京あめクロッシェ×京都国立博物館
 「トフリん手鞠」

伝統技法をもちいて表現された華やかな色合いが持ち味の「京あめクロッシェ。トフリんをイメージした「トフリん手鞠」は、見地味に見えるが、竹炭で色づけた五色の飴を用いて、墨の濃淡が巧みに表現されています。色や味わいを維持するため、飴職人の経験と勘をもとにすべて京都で手作り。お口に入れた時ほのかに感じるジノジャーは、トフリんのやんちゃな性格を表現しています。



*特別展覧会「国宝」期間中の販売はありません。
 *自動券売機でご購入の当日券のみ。

表紙(左上から) 国宝 秋冬山水図(左幅・部分) 雪舟筆 東京国立博物館 [I II期展示] / 国宝 天寿国繡帳(部分) 奈良 中宮寺[10月3日〜22日展示] 写真 奈良国立博物館(撮影 森村欣司) / 国宝 普賢菩薩像(部分) 東京国立博物館 [I II期展示] / 国宝 松林図屏風(右隻 部分) 長谷川等伯筆 東京国立博物館 [III期展示] / 国宝 伝源賴朝像(部分) 京都・神護寺 [III IV期展示] / 国宝 雙臂指帰(上巻・部分) 空海(弘法大師)筆 和歌山・金剛峯寺 [II期展示] / 国宝 深鉢形土器(火焰型土器) 新潟県佐田遺跡出土 十日町市(十日町市博物館保管) [I・II期展示] 撮影 小川忠博 / 国宝 桜図壁貼付(部分) 長谷川久蔵筆 京都 智積院 [10月24日〜11月12日展示]

土曜講座

12月23日 色を科学分析する」京都国立博物館保存科学室長 降幡順子

※平成知新館 講堂にて 午後1時30分～3時に開催。定員200名、聴講無料（ただし観覧券等が必要）。

※当日12時より 平成知新館1階グランドロビーにて整理券を配布し、定員になり次第、配布を終了します。

記念講演会

特別展覧会「国宝」開催記念講演会

「国宝の杜へ—京都国立博物館と古社寺保存法—」

登壇者 京都国立博物館館長 佐々木丞平

日時 11月4日(土) 午後1時30分～午後3時

会場 京都国立博物館 平成知新館 講堂

申込方法 往復はがきに住所 氏名 フリガナ 電話番号を明記の上、下記の申込先までお申込ください。往復はがき1枚につき1名様分のお申込となります。聴講無料（当日の特別展覧会「国宝」観覧券が必要）。定員190名。

申込先 〒605-0931 京都市東山区茶屋町527 京都国立博物館
11/4 記念講演会係

※熱で消せるボールペン（フリクションボールペン等）は使用しないでください。

応募締切 10月17日(火)（必着）

※応募者多数の場合は抽選となります。

※当日の座席につきましては、当選の返信の際に指定させていただきます。

これからの展覧会

◆新春特集展示 いぬづくし—干支を愛でる—

2017年12月19日(火)～2018年1月21日(日)

◆特集展示 御所文化を受け継ぐ—近世・近代の有職研究—

2017年12月19日(火)～2018年1月28日(日)

◆特別企画 貝塚廣海家コレクション受贈記念

豪商の蔵—美しい暮らしの遺産—

2018年2月3日(土)～3月18日(日)

◆特集展示 雛まつりと人形

2018年2月20日(火)～3月18日(日)



帆掛船蒔絵螺鈿重箱 京都国立博物館
(特別企画「豪商の蔵」にて展示)

国立博物館の展覧会

【東京国立博物館】

特別展「フランス人間国宝展」9月12日(火)～11月26日(日)

興福寺中金堂再建記念特別展「運慶」9月26日(火)～11月26日(日)

【奈良国立博物館】

特別展「第69回 正倉院展」10月28日(土)～11月13日(月)

【九州国立博物館】

特別展「新・桃山展—大航海時代の日本美術」10月14日(土)～11月26日(日)

◆ 明治古都館休館のお知らせ ◆

京都国立博物館では、免震改修他の基本計画を進めるため、明治古都館を当分の間休館することになりました。それに伴い、明治古都館休館中は、特別展覧会を平成知新館にて開催いたします。特別展覧会の前後を含めた期間は、展示作業等のため、名品ギャラリーを休止することとなりますが、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【今後の名品ギャラリー休止予定】

名品ギャラリー休止期間 9月5日(火)～12月17日(日)
名品ギャラリー部分開館 12月19日(火)～12月24日(日)
※2F 1F 2～5展示室(3F 1F-1は開室)
庭園のみ開館 9月5日(火)～10月1日(日)
11月28日(火)～12月17日(日)

ご利用案内

【開館時間】〈10月3日～11月26日〉

9 30～18 00 ※金 土曜日は20:00まで開館

〈11月28日～12月17日〉

9 30～17 00

〈12月19日～2018年3月18日〉

9 30～17 00 ※金 土曜日は20:00まで開館

※入館は各閉館の30分前まで

【特別展覧会「国宝」観覧料】

一般 1500円(1300円)

大学生 1200円(1000円)

高校生 900円(700円)

※()内は団体20名以上

※庭園のみ開館時観覧料 一般260円(210円)(庭園ガイド冊子付き)、大学生以下、満70歳以上は無料(要証明)

※名品ギャラリー観覧料 一般520円(410円)、大学生260円(210円)、高校生以下および満18歳未満、満70歳以上は無料(要証明)

【休館日】 月曜日(月曜日が祝日の場合は開館し、翌火曜日休館)

年末年始(12月25日～2018年1月1日)

アクセス

JR＝京都駅下車、市バスD2のりばより206・208号系統、D1のりばより100号系統にて博物館 三十三間堂下車すぐ
ブリンセスラインバス京都駅八条口のりばより京都女子大学前行にて東山七条下車、徒歩1分

近鉄電車＝丹波橋駅下車、京阪電車丹波橋駅から出町柳方面

行にて七条駅下車、東へ徒歩7分

京阪電車＝七条駅下車、東へ徒歩7分

阪急電車＝河原町駅下車、京阪電車祇園四条駅から大阪方面

行きにて七条駅下車、東へ徒歩7分

駐車場は有料となっております。ご来館の際は、なるべく公共交通機関をご利用ください。

※「博物館だより」を郵送ご希望の方は、返信用封筒(角2封筒は120円、長3封筒は92円切手貼付 宛名明記)を同封して 当館企画室までお申し込みください。



〒605-0931 京都市東山区茶屋町527

TEL. 075-525-2473 (テレホンサービス)

ホームページ <http://www.kyohaku.go.jp/>

発行日 2017年10月1日 デザイン 谷なつ子

編集・発行 京都国立博物館 印刷 株式会社
ライブアートブックス

京都国立博物館
KYOTO NATIONAL MUSEUM